

3 学校

学校は、学齢期のすべての子どもが一日の長い時間を過ごす場であり、授業や朝の読書タイムや全校一斉の読書時間を設けるなどして読書活動の推進が図られてきた。

学校図書館の蔵書冊数は、平成16年度末で小学校の合計が30,461冊、中学校の合計が24,080冊で、これは文部科学省の示す学校図書館の蔵書基準（学校図書館図書標準）を下回っている状況にある。

すべての小・中学校の図書館は、コンピュータ化が図られ、各学校間の資料検索やインターネットを使っての町立図書館の蔵書検索も可能で、調べ学習などにも活用されている。

学校図書館を支える人的環境の整備に関しては、学校図書館法の規定により平成15年度以降、12学級以上の全ての小・中学校において、司書教諭が配置されている。しかし、専任でないため本来の役割を果たすには十分な時間が取れないのが実情である。

(1) 小学校

学校が独自に実施した調査によると、ほとんどの子どもは読書好きで、1週間に5冊以上の本を読んでいる子どももいる。しかし、簡単な物語や映画化・TVドラマ化された本に偏る傾向もある。教諭による本の紹介や読み聞かせだけでなく、図書委員会活動としての読書活動も展開している。朝の読書タイムや昼の休み時間にボランティアによるおはなし配達を受け入れるなど、読書活動の推進を図っている。田原本小学校の図書館の改装や北小学校の図書館の新築など施設の改善も図ってきたが、より快適な読書環境を作るために、なお一層の設備改善と資料の充実が望まれる。

(2) 中学校

中学生になると、勉学や部活動などに費やされる時間が増し、友達や家族などの人間関係に悩みを抱いたりする。読書活動は、そういった悩みの解決の糸口を見つけたり、自分を見つめたり、将来の進路を考える手段の一つとなる。また趣味や興味も多様化して、専門的な情報を要求する時期でもあり、町立図書館で借りるなどして、多くの本を読む生徒がいる一方、ほとんど読まない生徒もあり、個人差が生まれている。

学校では、学級文庫の設置や、おすすめ図書の冊子を作ったり、図書便りで本の紹介をしたり、授業の中での関連図書の紹介などを行うなど読書活動への啓発を行っている。